

I. はじめに

日本学術会議第三部（理学・工学）は、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として、第三部役員会のもとに、「理学・工学系学協会連絡協議会」（以下連絡協議会）を設置した。平成23年7月現在、理学・工学分野の約70の学協会が参加している。

連絡協議会では、多くの学協会に共通する課題（新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等）、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた。それらの議論を通して、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」を作成することが合意された。我が国には科学技術ロードマップはあるが、これまで科学（サイエンス）の夢ロードマップは存在しなかった。

その後、連絡協議会に属する各学協会では内部的な議論を重ねて科学・夢ロードマップを作成し、一部の分野ではそれを第三部の分野別委員会がとりまとめて、11の分野別（一部は学協会別）の科学・夢ロードマップを作成した。11分野は第三部各分野別委員会に対応している。これは、第三部全体の議論をもとにとりまとめ、平成22年4月に公表された「日本の展望－理学・工学からの提言－」の科学図解版であるともいえる。

理学・工学分野全体の将来の夢を語る科学ロードマップを作成する試みは初めてのことであり、また1年余りの比較的短時間で作成したこともあって、内容は十分精査されていない点もあり、様式も必ずしも統一された形にはなっていない。しかし、このような試みの第1歩としては大きな意味と価値があると考え、本版を公表することとした。

この科学・夢ロードマップが、科学者コミュニティだけでなく、政府、行政や企業等でも活かされて、科学・技術及び社会の発展に少しでも寄与することができれば幸いである。

最後に、科学・夢ロードマップを作成するにあたって協力していただいた日本学術会議及び学協会の関係者の方々に心から感謝の意を表する次第である。

平成23年7月29日

日本学術会議第三部拡大役員会 及び
理学・工学系学協会連絡協議会を代表して
日本学術会議第三部部長
岩澤康裕